

芦別高入学者の推移確認

2間口維持で行動

芦別市高校問題協議会「市立化」の発言なく

【芦別】市高校問題協議会(会長・荻原貢市長)は2月29日、市総合福祉センターで会合を開いた。写真。芦別高の入学者推移を確認した上で、202

5年度以降も2間口(定員80人)を維持できよう、道教育委員会などに行動していく方針を了承した。市内で唯一の公立校の適正間口など、将来

のあり方について審議するもので、市や市教育委員会、市内関係団体などで構成。会合は2021年3月に開いて以来の開催。

この日の会合では、市教委の担当者が芦別高の入学者数の推移について説明。今年2月時点の出願者が26人にとどまり「欠員が40人以上になった場合は、募集間口が削減される可能性がある」と解説した。1年生の生徒数が2年続けて20人を下回ると、公立高校配置計画で閉校を前提にした「募集停止」になる可能性も示唆した。

説明後の議論で、保護者の立場で参加した委員のひとり「芦高の学校存続も厳しくなるのでは」と苦言を呈したが、協議会全体として、芦高の2間口維持を求める方針を了承した。

会合ではこのほか、「芦別高の市立化」をテーマに意見交換も行われた。市教委は、公立高校を市町立化した道内自治体の調査結果や市立化した場合の財政負担、教育環境などをまとめた参考資料を説明。荻原市長は「結論を導くものではく、芦高存続する仕組みのひとつとして、今後の参考になりたい」とし、発言を期待したが、委員からは市立化の賛否を含めて発言はなかった。

【新田一寛】



市教委の担当者が芦別高の入学者数の推移について説明。今年2月時点の出願者が26人にとどまり「欠員が40人以上になった場合は、募集間口が削減される可能性がある」と解説した。1年生の生徒数が2年続けて20人を下回ると、公立高校配置計画で閉校を前提にした「募集停止」になる可能性も示唆した。

説明後の議論で、保護者の立場で参加した委員のひとり「芦高の学校存続も厳しくなるのでは」と苦言を呈したが、協議会全体として、芦高の2間口維持を求める方針を了承した。

会合ではこのほか、「芦別高の市立化」をテーマに意見交換も行われた。市教委は、公立高校を市町立化した道内自治体の調査結果や市立化した場合の財政負担、教育環境などをまとめた参考資料を説明。荻原市長は「結論を導くものではく、芦高存続する仕組みのひとつとして、今後の参考になりたい」とし、発言を期待したが、委員からは市立化の賛否を含めて発言はなかった。

説明後の議論で、保護者の立場で参加した委員のひとり「芦高の学校存続も厳しくなるのでは」と苦言を呈したが、協議会全体として、芦高の2間口維持を求める方針を了承した。

会合ではこのほか、「芦別高の市立化」をテーマに意見交換も行われた。市教委は、公立高校を市町立化した道内自治体の調査結果や市立化した場合の財政負担、教育環境などをまとめた参考資料を説明。荻原市長は「結論を導くものではく、芦高存続する仕組みのひとつとして、今後の参考になりたい」とし、発言を期待したが、委員からは市立化の賛否を含めて発言はなかった。

【新田一寛】